

パートナーシップで取り組む

目標達成のためには、さまざまな人たちが知恵や情報、資源などを持ち寄り、力を合わせて課題を解決する等、活動に取り組むためのパートナーシップが必要です。ここでは、パートナーシップで取り組むためのポイントをご紹介します。

パートナーシップのつくり方

1. 集まる

関係者（ステークホルダー）が対等につながる場をつくる時は、強い課題意識を持つ行政やNPOだけではなく、企業や学校、地縁組織のような、影響を持つ団体やキーパーソンを交える。

2. 共有する

課題に関する認識や意見、具体的な問題などを共有する時は、多様な参加者の意見に耳を傾ける。そして、課題だけでなく、求める将来像を共有し、そのための必要なアクションを洗い出す。

3. 実践する

具体的な活動計画と役割分担を決める。成果を感じやすい小規模なことから着手するとよい。どのような資源（人や情報など）を持ち寄れるかを検討し、意思決定のルールを決め、実践体制をつくる。

4. 広がる

成果を振り返り、さらに必要な活動を発展させよう。活動体制の見直しや、新たな体制の構築が起こる。近隣地域や外部の団体との連携など、新たなメンバーとの交流に期待する。

パートナーシップで大切なこと

パートナーシップをつくっていく上では、調整的な役割（中間支援機能）を意識して動く人がいることが大切です。

1. プロセス支援

課題を解決するには「その道のプロ」だけではなく、客観的な視点をもって「変化を起こすこと」のプロが必要。中立的にプロセスに関わることで、よりスムーズに変化が促される。

2. 資源の連結

資金、知見、技術など、変革に関わるあらゆる資源を動員する必要がある。協働取組の内部と外部に存在する資源を発掘し、それを有機的に結びつけることが求められる。

中間支援の4つの役割

3. 問題解決の提示

活動の推進者が、自分のアイデアに周囲を合わせてしまうことがある。関係者全員の関心や要望を理解した上でアイデアの枠を広げ、変化のために必要な「問い」を明らかにする。

4. 変革の促進

これまでのやり方に捉われず、新しいことに挑戦する勇気を持つ。熟練者が若い世代の意見を聴いて新しい視点を取り入れるなど、大切な物を守りつつ、変化も受け入れる。

参考：「The Change Agent's Guide」Educational Technology Publications（1995年）

パートナーシップで取り組むために、サポートできる団体、拠点があります。

一般社団法人 環境パートナーシップ会議 (EPC)

EPCは、パートナーシップ推進に取り組むとともに、SDGsに関して情報収集、他セクターとの対話の場づくり、NGO間のネットワーキングなどを行っています。SDGs情報サイト「サステナビリティCSOフォーラム<http://sus-cso.com/>」を運営しています。パートナーシップの先進事例調査や協働の場づくりなどを各地で行うなど、環境問題や地域の課題解決のために必要なパートナーシップづくりのお手伝いをしています。

〒150-0001
東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山B1F
TEL:03-5468-8405 FAX:03-5468-8406
<http://www.epc.or.jp/>

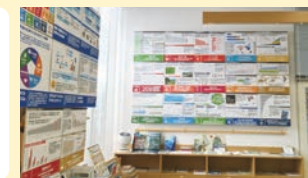


2015年：協働取組加速化事業における多様な主体による対話の場づくり（岡山県倉敷市）

地球環境パートナーシッププラザ (GEOC)

パートナーシップによって持続可能な社会の実現を目指す拠点として1996年に環境庁（当時）と国連大学によって設立されました。全国8カ所に設置されている環境パートナーシップオフィス（EPO）と連携しながら事業を展開しています。館内展示やセミナースペースの提供、機関誌の発行による情報発信などを行っています。

〒150-0001
東京都渋谷区神宮前5-53-70 国連大学ビル1F
TEL:03-3407-8107 FAX:03-3407-8164
<http://www.geoc.jp/>



GEOC館内のSDGsに関する展示